



2026 SUPER GT RACE REPORT

FUJI SPEEDWAY

Rd. 2

5.3 [sun] - 4 [mon]

[place] 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

[weather] sun 晴れ mon 晴れ

[spectators] 83,600人 (sun 33,300人 mon 50,300人)

Rd.1	OKAYAMA International Circuit	APR 11 - 12
Rd.2	FUJI SPEEDWAY	MAY 3 - 4
Rd.3	Sepang International Circuit	JUN 20 - 21 *開催延期
Rd.4	FUJI SPEEDWAY	AUG 1 - 2
Rd.5	SUZUKA CIRCUIT	AUG 22 - 23
Rd.6	Sportsland SUGO	SEP 19 - 20
Rd.7	AUTOPOLIS	OCT 17 - 18
Rd.8	MOBILITY RESORT MOTEGI	NOV 7 - 8

40kgのサクセスウェイトを搭載しながら、粘り強い走りとチームの計算し尽くされた戦略で逆転。ゴールデンウィークの富士で、2025年最終戦からの3連勝、2026年開幕2連勝を飾る。



2026 AUTOBACS SUPER GT Round2 「FUJI GT 3Hours RACE GW SPECIAL」が、5月3日・4日に富士スピードウェイで行われた。#36 au TOM'S GR Supra (坪井翔/山下健太)は、前戦で優勝を飾ったことで40kgのサクセスウェイトを搭載しながらも、予選から力強い走りを披露し2番グリッドを獲得。決勝ではトップを走るライバルとの差を確実に詰め、鮮やかな逆転劇で開幕2連勝を果たした。



RESULTS

Round 2

QUALIFYING 1	TSUBOI P2/1'26.640
QUALIFYING 2	YAMASHITA P2/1'26.418
RACE / Fastest Lap	TSUBOI 1'30.291 YAMASHITA 1'30.193

予選 2位 決勝 1位



Driver Standings 1位

Team Standings 1位

QUALIFYING 天候:曇り | 気温:21°C | 路面温度:27°C

4月に行われたRound1岡山で優勝を飾り、今回は40kgのサクセスウェイトを搭載してRound2に臨む36号車。同地で行われたシーズンオフのテストでも好調な走りをみせており、自信を持っているコースではあったが、公式練習では精彩を欠き13番手に終わった。

しかし、これまでの経験を踏まえて予選に向けては微調整のみで済ませ、Q1では坪井がタイムアタックを担当。僅差でライバルに先行されたが、2番手通過を果たし、午前の遅れを取り戻す速さを披露した。続くQ2では山下がマシンに乗り込んだ。全車のなかで最も重いサクセスウェイトを積んでいるため、多少の苦戦は想定されたが、それでも山下は渾身のアタックを披露し、1分26秒418を記録。2番グリッドを手にした。3時間で争われる決勝レースで、逆転優勝を狙う。


RACE 天候:晴れ | 気温:24°C | 路面温度:43°C

予選日の夜は豪雨に見舞われた富士スピードウェイだったが、朝から天候が回復したこともあり、決勝レースはドライコンディションで始まった。今回は3時間レース。途中で2度のピットストップが必要となるため、戦略を駆使して逆転を狙っていく。

36号車は山下がスタートを担当したが、序盤はライバルも手強く、路面のコンディションと噛み合わない部分があったほか、本来持っているクルマのパフォーマンスを引き出せないところもあったが、2番手をキープして40周目に坪井へ交代。ペースも回復してトップとの差を縮めていった。ライバルより早く2度目のピットストップを済ませる作戦でスパートをかけ、逆転。最終スティントも担当した坪井は着実に差を広げていき、最後は8.7秒のリードを築いて開幕2連勝を飾った。



Driver
坪井 翔

昨年は8番手からスタートして決勝は2位だったので、今回は2番手スタートということで十分に戦えると思っていました。ライバルも非常に手強くて、なかなかタフなレースでしたが、僕たちが選んでいたタイヤを考えるとレース後半でチャンスがあると思って、最後まで自信を持って臨むことができました。目標としていた開幕2連勝を果たすことができて良かったです。

Driver
山下 健太

僕が担当したスティントではいろいろあって、本来のペースで走ることができませんでした。何とか2番手を守ってパトンをつなぐことができたのは良かったのですが、トップとの差が大きく開いてしまったので、チームの戦略と坪井選手の速さで巻き返してくれて、本当に感謝しています。これでまたサクセスウェイトが増えますが、その中でもポイントを獲っていくことが重要です。その力が自分たちにはあると思うので、ミスなくしっかり戦えば、結果はついてくると思います。

Team Director
伊藤 大輔

チームとして開幕2連勝という目標を掲げていたなかで、しっかりとそれを実行できたのは素晴らしいです。最初は決して順調ではなかったなか、クルマのセットアップやタイヤ選択でアジャストしていきましたが、それでもライバルは速かったです。レースでも、序盤はトラブルがありましたが、山下選手が粘ってくれたことで坪井選手にうまく繋げることができました。最終的に我々が思い描いていたかたちで進めることができました。

Team Principal
館 信秀

36号車の走りは今回も素晴らしかったです。サクセスウェイトを積んでいたもので、あまり勝つことにはこだわらずに見ていましたが、本当に予想以上のパフォーマンスを発揮してくれました。逆に私がビックリするくらいの活躍ぶりでした。今回はドライバー2人の頑張りはもちろん、タイヤ選択も含めたレースでの作戦がうまくいったと思います。全てがうまくいきました。これでサクセスウェイトがさらに重くなるので、次戦はそう簡単にいかないと思いますが、この流れを維持していきたいと思います。次戦もたくさん応援をよろしくお願いいたします。